

9月21日は

敬老の日



循誘の元気なシニア特集



校区の大先輩たちへのインタビュー



中村貞子さん(91歳)

公：中村さんは現在公民館でおこなわれている「健康マー جان」の代表をはじめ、地域のいろいろな活動に関わっています。どんな思いで地域活動をされているのですか？

中：若い時から地域活動には関わっていたのですが、当時は強い思いなどなく、婦人会活動などをするのが当たり前という感じで始めました。しかし現在は地域で活動することの大切さがよくわかります。若い時に広範囲に気の合う友だちをたくさん作っても、高齢になって遠くに行けなくなったら、結局その友だちと付き合うことはできません。高齢になって相手をしてくれるのは、歩いて行ける距離にいる友だちなんです。私の知り合いにもかつては県や市単位の役職に就いて、一生懸命活動をしている人たちがいました。しかし彼女らも高齢になった時に地域に知り合いがいなければ孤独になってしまうのです。地元で根付くことが必要です。こういうことは、自分が年をとってみたいとわからないのです。

公：中村さんが地域活動を始めた頃のお話をお聞かせください。

中：最初は婦人会活動でした。あの頃は子育てが落ち着いたら次は地域に貢献する、という空気があって、自然に婦人会活動をするようになりました。それに婦人会だと言うと、姑が何も言わずに家を出してくれ、先輩ママから新しい料理を習ったり、愚痴を聞いてもらったりして楽しかったですよ。婦人会がなくなってからは、活動の場が食改(食生活改善推進協議会)に移りました。佐賀で国体があった時は、旅館などがあまりなく、今でいう民泊で選手を受け入れていました。選手たちのメニューは決められていたので、私たち食改が選手を受け入れている循誘の家庭に料理指導をしました。

公：普段の生活で「楽しい」と思うのはどんな時ですか？

中：趣味はお茶と洋裁です。お茶は学生の時から続けています。今年はコロナの影響でお茶会がすべて中止になって残念です。でもその代わりにミシンに向かう時間が増えました。楽しいことは…私は毎日が楽しいです。不思議とつまらないとか寂しいという気持ちになりません。毎日何かしらの用事があり、出歩いています。きっと私の相手をしてくれる仲間や場があるからでしょう。ありがたいことです。



▲コロナ対策を入念にしながらマー جانを楽しんでいます。



眞崎良之さん(90歳)

公：眞崎さんは今まで地域でどんな役員の仕事をされてきましたか？

眞：現在は町区(馬場自治会)の副会長と会計、それと交通安全協会と八幡神社の宮総代の代表をしています。町区の役員は今年で6年目ですが、その前にも自治会長を9年、副会長を14年しました。交通安全協会は20年近くしています。今年国勢調査がありますが、5回目の調査員をします。

公：地域の役員をされるきっかけは何だったのでしょうか？

眞：私は旧制中学を卒業するまで循誘にいましたが、その後就職して、九州内を転々としました。定年退職して実家のある今のところに戻ってきました。幼馴染の先輩が自治会長をされていて、その方から副会長にと誘われたのがきっかけです。

公：役員の仕事は大変ではないですか？

眞：そんなに大変ではないですね。ただ会計をしていると、自治会費の払う方がみなさんそれぞれ違うんです。毎月払いの班や、年間払いの班。それを把握するのに結構頭を使います。でも頭のいい運動になります。

公：普段どんな生活をされていますか？

眞：何もしていませんよ(笑)。以前は早起きして散歩をしていましたけど、今は暑いのでやめています。歩いている時は歩きながら暗算をしていました。例えば100から3ずつ引いていくとか。最後は必ず1になるはずなんですけど、なかなか1になりません。歩きながら他のことに気が取られると、計算が合わなくなります。また、柳町の諸富商店の前に貼りだしてある川柳を暗記しながら歩いたりもしました。多いときには、50句くらい覚えていました。最近はおぼろ家の草むしりや庭木の手入れ、それと昼寝で時間を潰しています。車の免許も昨年返納しました。やはり車が運転できないと、不便だし、さみしいですね。それでも生活の中で工夫していることもあります。いろいろお金の支払いをあえて口座引き落としにせず、毎回振込みにいきます。引き落としにすると、便利なのですが、結局人任せにすると、頭も体も弱っていきます。常に振込みを忘れていないか気を遣うし、窓口で会話をする機会も作れます。私流の認知症予防です。



▲眞崎さんのお父様は循誘公民館の第3代館長をされていました。



出水秀雄さん(90歳)

公：普段の生活について教えてください。

出：昨年腰を悪くしてから非常に不便な生活を送っています。しかし一人暮らしなので、食事など身の回りのことは自分でしていますよ。料理はある程度できます。肉じゃがやブリの照り焼きなどよく作りますね。テレビの料理番組や妻が残してくれた料理本を参考にしながら作る時もあります。買い物は近所に住む娘に頼んだり、自分でシニアカーを運転して行くこともあります。家では菊作りをして楽しんでいます。

公：地域ではどのような活動をされていますか？

出：昨年まで地区の長寿会の役員を7年間していました。入院することになって辞めました。病院が反対するのをきかずに無理矢理退院してきたら、結局腰が曲がってしまいました。やはりお医者さんの言うことは聞くものですね。現在は毎週公民館の「健康マー جان」に参加しています。シニアカーを運転して通っています。「健康マー جان」では参加者から手作りマスクをもらったりして、交流するのが楽しいです。

公：若い時のお話を聞かせてください。

出：私は宮崎県出身ですが、警察予備隊(現自衛隊)の募集があったので、当時の青年団の仲間たちと一緒に受けました。しかし受かったのは私だけでした。その後北海道の任務を言われましたが、私は肌が弱く、寒い所は凍傷になると訴えたら、目達原に配属先が変更になりました。それが私が佐賀に来たきっかけです。当時、休みの日は仲間と映画を見に行くのが楽しみでした。ある日、映画館で女優みたいにかわいらしい人が私の隣に座りました。私は思い切って彼女に声をかけました。その女性が後に私の妻となりました。残念ながらその妻は約20年前に亡くなりました。しかし現在は孫が仕事帰りに毎日家に寄ってくれて、仏壇に手を合わせてくれます。それがとても嬉しいです。

※この記事は本人の記憶をもとに聞いたことを書き記したもので、事実と異なる点がある可能性があります。ご了承ください。